

船舶事故等調査報告書

平成25年8月29日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2013門第22号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成24年12月30日 06時40分ごろ
発生場所	宮崎県延岡市延岡港内 延岡市所在の東海灯台から真方位274° 1,000m付近 (概位 北緯32° 35.5′ 東経131° 42.3′)
事故等調査の経過	平成25年2月18日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	貨物船 第十萬栄丸、499トン
船舶番号、船舶所有者等	134754、有限会社キッシュオーマリンサービス
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	船底外板に擦過傷
事故等の経過	本船は、船長ほか4人が乗り組み、大分県津久見市津久見港で石灰石約1,600tを積載し、船首約3.6m、船尾約4.8mの喫水で出港し、延岡港に向かった。 船長は、延岡港に入港する際、手動操舵で約3ノットの対地速力として北進中、平成24年12月30日06時40分ごろ左舷船底が軽く海底に接触した感じがしたが、航行を続けて06時50分ごろ延岡港に入港した。 本船は、後日、船底を調査したところ、船体中央部付近の左舷船底外板のペンキが剥離していた。
気象・海象	気象：天気 雨、風向 北西、風速 約1m/s 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の末期（小潮） 日出時刻：07時14分ごろ
その他の事項	本船は、通常、大潮の満潮時期に入港していた。 海上保安庁発行の九州沿岸水路誌には、次の記載がある。 延岡港は、河口港であり流砂のため水路維持が困難であることから総トン数300トン以上の船舶の入港は困難である。
分析	
乗組員等の関与	あり
船体・機関等の関与	なし
気象・海象の関与	あり
判明した事項の解析	本船は、延岡港で入港作業中、浅所に向かって航行したことから、浅所に乗り揚げたものと考えられる。

	<p>本事故発生場所は、五ヶ瀬川河口であったことから、土砂が堆積して水深が浅くなっていた可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、延岡港で入港作業中、浅所に向かって航行したため、浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 河口付近を航行する際は、水深を測りながら航行すること。・ 九州各港湾の状況について、九州沿岸水路誌を参考にすること。